

札幌市議団ニュース

2010年10月27日 No.26

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

決算特別委員会・論戦特集 ⑧ 井上議員

井上ひさ子議員は25日の決算特別委員会で、札幌市が行った事業仕分けでいずれも「廃止を含む見直し」となった中島体育センターと宮の沢競技場を取り上げました。

事業仕分けで「廃止含む見直し」の 中島体育センター、宮の沢屋内競技場は存続

井上議員は「何でこんなに利用されている施設が『廃止含む見直し』となるのか、理解できません」と前置きし、市民から出されている意見（別項）を紹介しながら「いずれも存続の声がいっぱいです。市民の声をどのように受け止めているか、うかがう」どただしました。

高田英基スポーツ部長は「両施設とも、札幌市のスポーツ振興にとって、重要な施設と改めて認識した」と答弁しました。

井上議員は「中島体育センターは'09年度9万1085人、宮の沢屋内競技場が3万9188人に利用されている。中央体育館は団体が多く利用、中島体育センターは個人利用のために必要な施設。機能を相互に補完し合っている。宮の沢屋内競技場は、北海道におけるライフル射撃競技の普及振興に不可欠な施設。いずれも私は維持すべきだと思う。今後、どのように対応されるおつもりか、うかがう」と求めました。

高田英基スポーツ部長は「両施設とも多くの方に利用されているので、存続させて行く方向で考えている」と明言しました。(10/25)

∞∞∞ 市民からだされている意見 ∞∞∞

【中島体育センター】

子どもさんから高齢者まで、家族そろって利用されている。病気がちだったが、通うようになって元気になった。種目が多く、料金が安くて年金者は助かる。通いやすい、利用しやすい、廃止は困る、継続してほしい。

【宮の沢屋内競技場】

道内では唯一、屋内覆道式ライフル射撃場である。有害鳥獣を駆除するハンターの練習の場がなくなる。競技場がなくなると射撃部の活動が出来なくなる。部活ができない。テニスなど高齢者にも利用され、冬場の健康増進の機会を失う。施設の存続を強く求める。